「●●君は本当に成績が悪いね。」

私が就職活動をしていたのは、今から遡ること 20 数年も前。比較的簡単に就職できる時代も過ぎ去り、就職氷河期と呼ばれた時代に入って何年か経った時であった。

私は都内の某私立大学文学部に入学。語学を学びたいという理由だけで文学部に入ったものの、それほど高い志を持っていなかった私は、浪人生活から解き放たれた解放感に浸り、入学当初から殆ど勉強もせずに趣味や遊びに没頭。成績も単位を取得するギリギリのレベルであり、担当の教授の覚えも決して良くはなく、それを最後まで貫いた大学時代であった。

そのような自堕落な生活の中に於いて、就職活動を始める時にようやく危機感を覚えた訳だが、職に就いた後はこうしていきたいという変な拘りだけは何故だか持っており、「自分で考えて動いていきたい」という気持ちがそれであった。

幾つかの分野に絞って就職活動を展開する中で、法学部の友人と一緒に同じ会社に資料請求をしても彼だけに資料が届くという、学校だけならず、学部の差別も経験しながら、ここは勝負所とめげずに 60 社以上に資料請求をしたことを今でも覚えている。ガッツだけはあったのであろう。

会社説明会は 30 社くらいに参加。その中で 15 社ほど面接。このような自堕落な生活を送った成績が極めて悪い学生でありながら、ありがたい事に誰でも名前を知っているような会社から 3 社内定を頂いた。

内定後に 3 社の人事担当者から言われた台詞。これがタイトルの台詞であった。面接時の試験の偏差値が「43」くらいしかなかったらしく、大学から届いた成績も見ながら人事担当者揃って苦笑いしながら皆こう言った。

同時に、「君はバカだが（今だと問題になるかもだが)、ウチの会社には合うと思ったから採用した」。内定した全社からこう言って貰えたのは率直に嬉しかった。

自分なりに何で内定を貰えたのかを改めて考えてみると、やはり自分を偽らず、こうやって仕事をしていきたいということを真っ直ぐ相手に伝えた事が功を奏したのではないだろうか。

60 社に興味を持ったが、57 社に断られ、 3 社に内定。5%の内定率。

これが高いか低いか分からないが、自分を認めてくれた会社で生涯頑張ろうと思った訳だが、そのような気持ちで入った 1 社目の会社で配属されて分かったことに愕然とした。

最初の 10 年間以上は「自分で考える仕事」を殆どさせて貰えないのである。

採用して頂いた会社なので、そこで骨を埋める覚悟ではあったが、いくつもの営業所を回り、何人もの先輩方に真相を聞いても全員の答えは同じで「言われたことをするのみ」だと。

言われたことのみをする事が悪いという訳ではないが、個人的には「自分自身が考えることによって自分の存在意義を感じていたい」。そんな事なのかなと、今こちらを書きながら改めて思ったりもしている。

その後、悩みに悩んで同期の退職 1 号となったのが 5 月中旬。やり直すには少しでも早い方が良いと思い、1 カ月半での退職と至った訳だが、このような経歴の人間を今後雇ってくれ

る会社もないであろうと公務員試験の勉強をしながらも、途中で気になった企業があれば面接を受けていこうと決めて始動していった中で、現在働いている出版社の営業部に同年の９月に入社する事となった。
大学時代の就職活動では、マスコミは受けていたものの出版社に興味を持ったことは一切なく、読む本も歴史小説やノンフィクション、コミックや雑誌くらいで、本が好きでたまらないとは嘘でも言えないような人間であった。
気づけば今年で入社 25 年。本好きの父親や妻からは、よくぞその知識で出版社に勤めているねと未だに言われる訳だが、仕事を続けることが出来た最大の理由は「自分で考えて仕事をする」ことが出来たという、自分が希望していたスタイルであったからであろう。
これから社会に出ていく皆さんにとって、何もプラスにならないような事を延々と書きなぐってしまったが、皆さんに言いたい事は、人生は色々な道があり、正解なんて無いということ。皆さんそれぞれの個性に自信を持って、たとえ遠回りになろうともご自身の決めた道を迷いなく進んでいって欲しいと思う。その方が悔いのない人生になると私は信じている
最後に。偉そうに長々とすみませんでした（笑）